教弘文庫126

＜生涯学習実践作文集35＞

# 「生涯学習の実践～人と人との『つながり』づくり・地域づくりに向けて～」

２０２５年（令和7年）４月

公益財団法人 日本教育公務員弘済会埼玉支部

教弘文庫126

＜生涯学習実践作文集35＞

# 「生涯学習の実践～人と人との『つながり』づくり・地域づくりに向けて～」

２０２５年（令和7年）４月

公益財団法人 日本教育公務員弘済会埼玉支部

# 自分の学びを生かした、人と人との『つながり』づくり・地域づくり

公益財団法人 日本教育公務員弘済会 埼玉支部
支部長　細　田　　宏

生涯学習実践作文の募集は、当支部が学校だけでなく広く教育文化活動への支援を行うために実施している教育文化事業に位置付けられています。県内にお住いの方、又は県内で働いている方を対象としての作文募集は、平成２（1990）年度から始まり、30年間以上続いています。毎年度、様々なテーマで作文を募集してきました。

一方、皆様方の生涯学習の場でもＡｆｔｅｒコロナの視点に加えて、様々な感染症等に対応した活動の制限が求められる状況にありました。そして、現在もまだまだ気を抜くことなく生命と健康を守る取組等が続いています。

令和６年度は作文のテーマを「生涯学習の実践～人と人との『つながり』づくり・地域づくりに向けて」としたところ、29編のご応募をいただきました。生涯学習を取り巻く様々な状況等を踏まえながら、自分の学びを生かした生涯学習を実践する中で、人と人とのつながりづくり、地域社会等との関わり合いなどについてまとめていただきました。ご応募いただきましたどの実践作文も大変に優れていまして、審査委員の皆様は積極的に意見交換して、丁寧に審査・選考に当たられていらっしゃいました。このような過程を経て、晴れの各賞を受賞されました皆様方には、改めて、お祝いを申し上げますとともに、敬意を表したいと存じます。

昨年11月27日（水）には埼玉会館にて、表彰式を挙行いたしました。ご出席いただきました受賞者の皆様からは、「私が出来ることは、ほんの小さなことですが、これからも高齢者のための生きがいやつながりづくりなどを通して、地域のために努力していきたいと思います。」、「私の体験は、自分自身の意識や行動に大きな変化をもたらし、様々なアイデアも浮かび準備も楽しくなりました。そして、何より地域の方々の笑顔が励みになります。これからも今まで以上に地域社会の交流を進めていきます。」などと述べられていました。多くの方々が日々の生涯学習の様々な場面において、ご自身の学びを生かして具体的な実践にお取り組みいただいていることに改めて気付かせていただきました。

結びに、ご応募いただきました皆様方におかれましては、Ａｆｔｅｒコロナの中ですが、人生100年時代に自分の学びを生かすという視点で、ご自身と地域とのかかわり、ともに取り組む実践をさらに深められ、多くの仲間と共有して、職場や地域のためにより一層充実したものとしていただければと存じます。併せて、本作文集をお手に取られた方々にも、その実践や考え方等が広がっていくことを期待したいと思います。

# 生涯学習の「学び」は行動を広げ、人・地域をつなぐ

生涯学習実践作文審査委員会委員長
東京家政大学名誉教授
前東京家政大学学長　山　本　和　人

2019年末から世界を震撼させたパンデミックCOVID-19も落ち着きを見せ、社会生活もようやく以前の状態に戻ってきたように思える。だが、明らかに従前の社会から変化した。マスクは日常でも必需品になり、スマホへの依存度は高くなり、WEB会議が定着した。物品の購入もWEBで注文し、葬儀の形態すら変化した。

コロナ禍を過ぎた今、団塊の世代は社会的引退をした人が多く、以前のようには地域の活動家も見られなくなった。また、予想外の自然災害や社会的な事件も多く、国外に目を向ければ、自然災害に加えて、最も凄惨な人災である戦争に目を奪われる。人々は以前の生活を取り戻しながら、何が大切かを問いつつ、暮らし始めたといえよう。

そのような中、令和４年度から文部科学省は第４期教育振興基本計画（９年度まで）を策定し取り組んでいる。その政策の基本方針の一つに、共生社会･社会的包摂､精神的豊かさの重視（ウェルビーイング）がある。難しい用語ではあるが、誰一人取り残さず、全ての人の可能性を引き出す、そして、地域や家庭で共に学び支え合う、そのような社会の実現に向けた教育を進める、というものである。

人口減少社会となった日本は、地域社会に様々な課題を抱えている。その課題の全てを解決できなくとも、地域住民が希望する解決に結びつくことが望ましい。全てを他人に任せるわけにはいかない。私たちは､「自分一人が良ければそれでよい」という考えや行動に与することはないであろう。

生涯学習には定型がない。人それぞれの学習内容、学習方法で、いつでも、誰でも、いつからでも始めることができる。そして何より、身近なところにその機会や内容・方法はある。学ぶ仲間も、学ぶ場所も。同時に、地域課題も身近なところにある。生涯学習を継続する中で、何を発見するかが大切なのだ。「自分のできることはほんの小さなこと」。そして、「それができるかどうか」。その答えの一つを、この実践作文が示してくれている。

## 令和６年度
## 生涯学習実践作文　表彰式
《令和６（2024）年１１月２７日（水）　埼玉会館・ラウンジ》

生涯学習実践作文 受賞者と審査委員

最優秀賞　岡　壮　氏

優秀賞　　吉田　洋二　氏

優秀賞　　柴田　博　氏

講評　　山本　和人　審査委員長

受賞者代表あいさつ　岡　壮　氏

公益財団法人　日本教育公務員弘済会 埼玉支部　細田　宏　支部長　あいさつ

表彰式の様子

# 目　　次

◇　自分の学びを生かした、人と人との
『つながり』づくり・地域づくり　…　2
公益財団法人　日本教育公務員弘済会埼玉支部
支部長　細　田　宏

◇　生涯学習の「学び」は行動を広げ、人・地域をつなぐ　……　3
生涯学習実践作文審査委員会委員長
東京家政大学名誉教授
前東京家政大学学長　山　本　和　人

**最優秀賞**

▽　生涯学習の実践
～人と人とのつながりづくり・地域づくりに向けて～　……　7
深谷市　岡　壮

**優 秀 賞**

▽　生涯学習の実践
～地域作りは自分作り～　……　11
羽生市　萩　原　澄　江

▽　生涯学習の実践
～曲が作る人と人との「つながり」・地域づくりに向けて～　…　15
川口市　吉　田　洋　二

▽　生涯学習の実践
～小さな水族館から発信したいこと～　……　19
東松山市　柴　田　博

□　生涯学習実践作文受賞にあたって　……　23

◦　令和６年度 生涯学習実践作文受賞者一覧　……　24
◦　令和６年度 生涯学習実践作文審査委員会委員　……　25
◦　令和７年度 生涯学習実践作文募集案内　……　26
◦　あとがき　……　29

最優秀賞

# 生涯学習の実践～人と人との つながりづくり・地域づくりに向けて～

深谷市　　岡　　壮

私の経歴はサラリーマン、独身寮、単身赴任、マイカー通勤、新幹線通勤、夜間建設部門勤務等を経験し、地元埼玉県勤務はありませんでした。このため、地元での人的交流はないに等しい状況でした。

定年が近づくと、定年後を如何に生きるか、人と人とのつながりをどう作るか模索していました。

ベースとなる考えは、地域密着型、活動は、人数に制約（一組○人）がないこと。いつでも・どこでも・誰でも参加できること。

まず家内が取り組んでいるフォークダンスに参加しました。そこで音楽に合わせて身体を動かし、年齢、性別、経歴に関係なく、様々な人とコミュニケーションをすることの楽しさを知りました。

そして多くの人にその喜び・楽しさを知ってもらうことを目的に、次の事業を行いました。

●城址公園で、一般市民を巻き込んだフォークダンスフェスティバルの開催。
●パティオでフォークダンスの開催
●Ｊ１サッカー熊谷試合会場において、200 人を超えるメンバーでフォークダンスを踊り、会場を大いに盛り上げました。
●熊谷八木橋デパートバラエティーダンス大会に参加
●老人保健使節等へのボランティア活動の実施（踊り・手遊び）
●老人クラブ連合会芸能祭への参加
●公民館祭りへの参加
●日本赤十字病院七夕祭りへの参加
●地元自治会における歌声サロンの開催

●深谷公民館における歌声サロン深谷の開催

以上の活動を通して、多くの方の笑顔、生き生きとした姿を見て、更なる元気・勇気・やる気をもらいました。

そしてコロナ。

コロナ感染防止対策として、不要不急の外出の自粛が求められ、家にこもることが日常となりました。

家にこもった結果、孤独、孤立、人とのつながり、地域との関わりが希薄なり、身の周りでも足腰が弱まり、認知症になる人が増えてきました。

人間は、人とのつながり、地域との関わりが必要で大事であることを痛感しました。

**童謡・唱歌・昭和歌謡等をみんなで歌い、身体も動かし益々元気です**

今後ますます少子高齢化時代になります。高齢者が元気で生きがいを持って生活する。そのための人と人とのつながりづくり・地域づくりをどうするか考え続けていました。

高齢者の人とのつながりを作るには、まずは家に籠らず外出してもらう。その行先として力を入れたのが歌声サロン深谷。

主催：深谷藍の会（会長：岡壮）、協力：深谷地区社会福祉協議会、深谷公民館、開催は毎月２回、木曜日、13 時から 15 時、参加申し込み不要。参加費無料。出入り自由とし、参加のためのハードルを極限まで下げました。身近な人と気兼ねなく、想い出の歌を歌い、身体を動かす。脳はフル回転です。歌うことは感情を豊かにし、気持ちを若々しくし、健康維持増進、認知症予防、生きがいづくりに役立ちます。歌のうまさは必要なし、関係なしです。

歌声サロンは、情報交換の場としても機能させています。

●深谷警察署交通・生活安全課を招聘し、生活上の留意事項の講話を受け、安心・安全な生活と被害防止活動に協力しています。

●社会福祉協議会からは、各種情報提供を受けました。その結果、社会

福祉協議会へ、歌声サロン参加者と名乗った相談が多数あったとの紹介があり、社協を身近な存在とすることに協力しています。

●深谷市主催のためるんピック対象事業として登録し、健康維持増進と生きがい造りに貢献しています。

●参加者から、文化会館で写真の展示会が行われる等の情報提供を積極的に行ってもらい、仲間意識の醸成にも努めています。

歌声サロン深谷は大人気です。開催案内を公民館だよりに掲載するだけで、毎回100人を超える人達が集まります。最近は男性の参加者も多数見られます。

楽しいのは歌だけでなく、司会進行の話が面白くて楽しい、毎回それを楽しみに来ているという常連さんもいます。

また、音楽に合わせたリズム体操や脳トレ、じゃんけん遊び等も他にはないと好評で、開始時間前には席が埋まってしまうような状況です。証城寺の狸林は、英語と日本語の２か国語で同時に歌い、刺激的な脳トレ訓練です。

歌声サロン深谷の波及効果として、他自治会・長寿会から歌声サロン開催への協力要請がありました。また、音楽に合わせて身体を動かす機会がもっと欲しいとの声にこたえ、ＳＳの会（スーパーシルバーの会）を立ちあげ、音楽に合わせて身体を動かすレクリェーション活動も行っています。

**深谷市長小島進様が激励にこられました。**

**「渋沢栄一翁新一万円札発行記念大会」を開催し、くす玉割りを行いました。**

「渋沢栄一翁新一万円札発行記念大会」を開催し、くす玉割りを行いました。渋沢栄一翁は「できるだけ多くの人に、できるだけ多くの幸福を与えるように行動するのが我々の義務である」との名言を残しています。その名言をかみしめ、私ができることはほんの小さなことですが、これからも高齢者の生きがいづくり、人と人とのつながりづくり、地域づくりに向けて一層努力をする決意です。

優秀賞

# 生涯学習の実践
## ～地域作りは自分作り～

羽生市　　萩　原　澄　江

羽生市三田ヶ谷地区は、現在特に高齢化と過疎化が進んでいる。私が退職した頃六十五歳前後の誰もが「老人会」に入会するものと思っていたし会員数も大分多かったらしい。

しかし時代が変化し「老人会」解散地区が次々増え、五年前「喜右衛門シニアクラブ」も会長の引き受け手がいなく、総会の席で「老人会」の解散が決定した。

一方私は、十七年前から喜右衛門の五十代～六十代の女性に呼びかけ「あははの会」を立揚げ活動していた。調理実習・手芸・絵手紙・書などを通し親睦をはかってきていた。コロナ禍で調理実習は中止したが、年齢を重ねた今「フレイル予防」を痛感し、市の主催する「いきいき百歳体操講座」の受講を会員に勧め受講した。修了証を頂けたのは五人。そこで、喜右衛門地区に「百歳体操」を広めたいと自治会長に協力を申し出たが、承諾は得られなかった。また修了者の中にも説明役や実技の披露を嫌がる人もおり、『百歳体操』の実施を断念してしまった。

月日は流れコロナ感染も下火になった頃、Ａさんが『喜右衛門シニアクラブ』を復活させたいと動き出した。彼は私に以前の会則とほぼ同じ内容の「案」を提示し、協力を依頼してきた。勿論協力すると私は答えた。

その後Ａさんは趣意書や会則などを印刷し、小字ごとに回覧板を通じ入会を呼びかけたのだが、申込者は十人以下だったとか。

それでもＡさんは諦めず、趣意書などを修正し再び私に届けてくれた。しかもＢさんを誘い三人で発足に向かって原案を作り、人数は少なくとも発足させたいのだという。そう言われると私も色々提案した。そして決まったのがフレイル予防を目ざす『喜右衛門体操クラブ』だった。会

の運営は世話役として三人が当たることにした。その後何回か集まり開催日時、年会費、活動計画も立て四月からスタートすることを決めた。その時である。Ａさんは自分が事務局を担当するから私に『会の代表』になってくれと言ったのである。押しつけられた感じもしたが、講座の修了者でもあり会の名付け親でもあり引き受けることにした。

**板書「今日の流れ」の説明**

こうなると私の役目は当日の流し方を考えることだと俄然やる気がでてきた。「百歳体操」をどう説明するか？掲示物の作成や流し方を考えた。百歳体操を伝達するだけでなく楽しんでもらう工夫も考える。他にじゃんけん体操･お口の体操･脳トレも入れたらと次々に思いは膨らんで来た。更に「喜右衛門体操クラブ」の趣意を「合い言葉」にすることを思いついた。「気持ちよく　笑顔で挨拶　門仲間　体操しましょう　ご一緒に　そうすりゃ　くよくよする暇ありません。ラリルレろんろん　ぶれずに生きよう百までも」

この合い言葉を斉唱しスタートしたら会の目的もはっきりするし楽しそうに思えた。

そして前半はメインの百歳体操。後半は歌体操や脳トレを取り入れよう。そう思うとボランティアで介護施設や子供会を訪問した時使ったネタを思い出した。例えば『桃太郎』の歌を斉唱しながら「桃太郎」と歌った時には股を叩き「さん」の時は指三本を出す。という動作を入れるのだ。その他『た』抜き歌、『さ』抜き『の』抜き歌なども、その字の時歌わず手拍子や足踏みを入れる。その他五文字の並べ替え・早口言葉・パタカラ体操など次々浮かんできた。色々考えている時間がとても楽しかった。埋もれていた経験が生かされる喜びもあった。そして四月十三日スタートしたのだった。

研修所には十三名も集まった。なんと自治会長も会員になっていた。

Ａさんの『働きかけ』のたまものだ。

私は板書した『今日の流れ』に沿って進めればいいだけだ。前半「百歳体操」後半は歌体操や脳トレ。最後には『三百六十五歩のマーチ』を三番まで歌い、手拍子や足踏みをして終了と告げたのである。すると拍手と「ありがとうございました」と言葉のシャワー。とても幸せな気分。まずは成功感を味わえた。

高齢介護課職員の説明

二回目から百歳体操に『重り』を使うことにし、二百グラムの水を入れたペットボトルを『重り』の代用としたり回数も増やした。

三回目集会所に行くとなんと椅子と重りを巻き付ける装具まで準備されていた。Ａさんと自治会長が高齢介護課に実情を伝えると、それらを一人一人に貸与してくれたとのこと。

行政の配慮に感謝しつつＡさんたちの交渉術の巧みさや人脈の威力を感じさせられた。二人はその時『体操講座』の申し込みもしてきたという。その後テキストも無料配布され状況が整い、回も重ね、会員も十八人に増えた。会員は開始時前から集合してくれている。かけ声も大きく

## 喜右衛門体操クラブ

秋祭りの舞台の様子（合言葉斉唱）

なってきた。そして七月の末『暑気払い』を実施することになった。世話人に自治会長も加わり会場を作り料理や飲み物を並べ、十一時半開会。「乾杯」の発声前に最年長のＫさんはこう挨拶してくれた。「石川啄木の歌」を借用し『喜右衛門の会に向かいて言うことなし　体操クラブは有り難きかな』と。その後懇談に入りカラオケで盛り上がる。会員に一体感が生まれ、私まで昔の歌を披露。Ａさんが〆の挨拶をして二時に散会。暑さを忘れ元気を貰えたひと時だった。

「代表」を引き受けてから私は意識の変化に気づく。責務が脳を活性化させるのだ。情報収集も楽しい。ＡさんＢさん自治会長さんの後押しに応えようと地域の活性化を望む時私は生き生きしてくるのだ。やがて『重り』の数も増え、成果を実感できる日も近いだろう。「人生百年」も夢でないと思える私に、今、私はなっている。

優秀賞

# 生涯学習の実践　～曲が作る人と人との「つながり」・地域づくりに向けて～

川口市　　吉　田　洋　二

私たちのウクレレクラブは来年で25周年を迎えます。

旧鳩ケ谷市役所の音頭で「活き活き生涯活動」の一つのクラブとして発足しました。当初は、参加者の皆さんは若くて、実行力がある方が多くいました。

地域の公民館、福祉センターで練習をして、その実績を高齢者施設、町内会、老人会などで披露をすることが活動の中心でした。ウクレレの伴奏で、抒情歌、童謡を演奏すると、そこには、大きな声で歌う姿、笑いが広がりました。

ウクレレは、本来はハワイアンのリズム楽器ですので、鳩ケ谷フラ協会の皆さんとも踊りを交えて、歌とフラダンスの交流会も楽しく行うことができました。

当初は、60歳代後半で活動に参加した皆さんは、10年が過ぎ、20年が経つと、練習そのものに通うことが難しくなり、世代交代が少しずつ進んできたのも、無理がないことです。

このような事情の中で、施設ボランティア訪問は、継続することに、注力をいたしました。クラブ員への前向きの影響も見えてきました。

音、リズムが、初めて会う方との絆を作ることができると信じていたからです。

フラダンス

施設からの要望は年を重ね

るにつれて、少しずつ変化をしてみております。

デイサービス、老健施設、特養老人施設。施設別に、年齢別にプログラム変える必要があり、訪問前の打合せ、作成資料の工夫に時間割くことが多くなりました。

しかしながら、時代の変化が、活動の方向性を示してくれるようになりました。

まず、施設の求めるものは、「癒し、誰でも知っている曲、笑い」が必要と明白になりました。和音はその為に必要な技術で、練習にも力が入ります。

認知症の皆さんが多い施設では、「ゆっくりと、大声で、繰り返して歌う」が、キーワードになりました。音が始まると、皆さんの関心が演奏者に集中します。

非日常の出来事の始まりです。最初は、小さく歌っていた声が、少しずつ、少しずつ大きくなります。まして知っている曲は、楽しく、体を動かして歌ってくれます。

訪問前に、十分な打合せが出来れば、本番は上手くゆきます。

事前の準備の重要さを、お互いに認識するようになりました。

さて、なんでも音楽が受け入れられていた時代は過ぎました。

2019年末に世界中を震撼とさせて、日常生活の動きを止めた長い活動休止期間は、地域に受け継いでもらう音楽作りを検討しました。

鳩ケ谷は、昔から歴史に何度も登場する地区です。

江戸時代には、徳川家康を祭った日光参詣のために御成道が「鳩ヶ谷宿」を通過しており、この道に関係がある「里の子守歌」を作曲して、地元の民謡クラブ、民謡保存会、日本舞踊の皆さんに浸透することを企画しました。

歌詞は旧鳩ケ谷郷土史会会報に掲載された口伝の子守歌を使用することにしました。作者はお亡くなりになっているので、親戚の方に使用することをお断りして、曲と一緒に披露をいたしました。

歌詞を調べてみると、江戸後期の世相や、今に伝わる、歴史保存物の洗い出しができました。「江戸に行くには何里ある。往ったり、来たり

で十里ある」。お江戸日本橋を起点とした一里塚は鳩ケ谷の吹上橋袂で五里あります。また、橋の袖には一里塚が立派に立っております。歴史建造物に加えて、江戸末期の鳩ケ谷・里村の歴史を知ることができました。

皆さんの、温かい協力のお陰で、曲、楽譜、説明書のデータを川口市ホームページに掲載することができました。

「川口市にゆかりの音頭・踊りのアーカイブ」を開いて頂くと、音楽が流れます。アメリカの友人に紹介をしました。今や、ウェブでアクセスできるようになりました。合わせて舞踊の皆さんに振付を依頼して、公民館祭りでは、歌と踊りを披露することにしました。ついでに、群馬県桐生市で活動をされている、タオル作家の方に和手ぬぐいのデザインを依頼して、タオルを作っていただきました。たった一つの思い付きが、地域の皆さんを巻き込むとは、驚きの連続でした。

さて、ウクレレクラブの地域の活動は施設訪問が主になりましたが、里の子守歌を川口市内で広げるための活動は、多文化共生に目をむけることにしております。

市内には多くの外国人が住んでいます。日本での生活を進めるためには、まずは日本語の学習が必要です。公民館には「日本語ボランティアの会」があります。そこでは言葉以外に生活習慣、日本人との付き合い方などを勉強しています。

これらの皆さんに「里の子守歌」を母国語で歌っていただくように、お誘いしております。今年の春は、中国の方が、しっとりと歌ってくれました。中国語の響き、メロディーにはうっとりでした。今年は、英語とイラン語で歌っていただく企画をしております。幸い

**コンサート**

にも、川口市が子守歌を七か国語に翻訳してくれましたので、関心のある皆さんに声掛けして、公民館でそれぞれの言葉、雰囲気で歌っていただくことを勧めております。伴奏は、鳩ケ谷ウクレレクラブが担当をします。

時代が進むにつれて、年齢が動くにつれて、ウクレレ活動の当初の動機はうすれてきました。が、姿勢は変わっても、地域の皆さんとの繋がりが、口コミで広がることは、やはり長い時間があったからだと思います。

幸いなことに、ウクレレの音色、リズムは変わりません。ソ・ド・ミ・ラのチューニングをしながら、今日はハワイアン、明日は抒情歌。はたまた、今日はフラの伴奏、明日はハーモニカクラブの伴奏。音楽が地域の仲間、外国の仲間を呼びこんでいます。一度アーカイブにアクセスしてください。歌っている方は93歳のクラブ創設者です。

「ねん、ねん、ころりよ。ねんころり。ぼうやの子守りは、何処へ行った。坊やの子守りは江戸へ行った。江戸に行くのに何里ある。往ったり、来たりで十里ある。」

どうですか。癒しに出会いましたか。

**コンサート**

優秀賞

# 生涯学習の実践
# ～小さな水族館から発信したいこと～

東松山市　　柴　田　　博

**「ムサシトミヨを多くの人に知ってもらいたい」**

世界で唯一、埼玉県の元荒川源流部にのみ生息している埼玉県の魚であることを。そして、ごく近い将来、野生での絶滅の危険性が高い一年魚であることを。

**「ムサシトミヨを多くの人に観察してもらいたい」**

体長５cm 程のトゲはあるがウロコのない魚であることを。そして、オスがメスに求愛活動をしながら小鳥のように巣を作り、孵化まで寝ずの番で巣を守る魚であることを。

**「ムサシトミヨを多くの人に守ってもらいたい」**

元荒川源流部の生息地は水草の繁る水質のきれいな川で、埼玉県指定の天然記念物地域であることを。そして、人と生物が調和を持って暮らせる自然環境の保全の大切さを。

私達は東松山市の生涯学習施設「きらめき市民大学」にて郷土の歴史や文化を学び２年目を迎えている。早春、埼玉県の魚「ムサシトミヨ」の保護保全活動に長年熱意を持って携わる熊谷市ムサシトミヨ保護センター、及び守る会の方々との出会いがあった。その活動はユ

天然記念物地域の清掃活動

ネスコ未来遺産にも登録されており、身近な地域の課題に向き合い、自然や文化を守ることの大切さを子ども達に伝えている。

私達学生有志の 11 人がその活動に賛同し、ムサシトミヨの保護保全の実践活動を行いたく県の水族館や先進飼育学校等を訪問し、多くの経験談やアドバイスを頂いた。

又、生息地元荒川のビオトープ地での清掃活動にも何度か参加した。ここでのボランティア活動には地元の小中高校生や動物専門学校の先生学生達、県内外からの方々等多彩な顔ぶれであった。同じ志を持つ老若男女の参加者が、胴長靴で川の清掃活動に共に汗を流し語り合いながらの活動に、仲間達としての素晴らしい「ムサシトミヨを守る人々の輪」が出来ていると実感した。私達もこの輪の一員であり、更にこの輪を少しでも広げなければとの認識を新たにした活動であった。

私達にできる実践活動の一つとして、つがい 10 匹を県より譲り受け、市民大学校舎内の片隅に成魚用と稚魚用水槽２個の小さな手作り水族館で、ムサシトミヨの飼育・孵化に挑戦することから始めた。

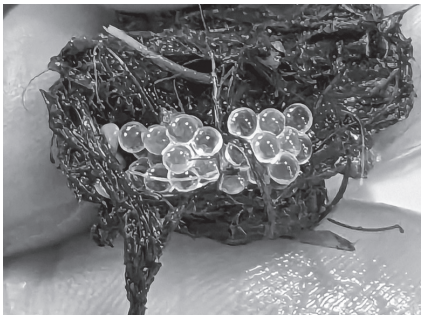
当初専門家からは、東松山市を含む比企地域には生息の記録が無く、技術的にもハードルの高い挑戦との意見も有ったが、飼育予定の水槽内を生息地の清流環境に近付けることから始めた。水槽内水温を約 15℃程度の低温管理、生息地より分けて戴いた水草の植え付け、水質水流の調整、水槽内清掃の徹底、１日数回の餌付け等々毎日交代で世話を続けたが、多くの予期せぬ難題が待ち受けていた。

幸いにも先のボランティア活動で知り合った仲間達が経験を記録したノートを広げながら、一緒になって問題解決に取り組んでくれたこともあった。お陰で一歩ずつ前進出来たと感謝している。

市民大学内での右往左往の飼育から２ヶ月経過した頃に、水草で造ったピンポン玉ほどの巣を発見。１週間後には金色に輝く卵粒から待望の孵化に成功し、ついに１～２㎜の稚魚が泳ぎ出した時の感動は忘れられない。

又、巣は出来たが孵化に至らなかった時の悲しみ、やっと孵化に成功した稚魚が一夜にして全滅した時の挫折感、慈しみ合いながら子育てを

し、そして役目を終え水槽に別れを告げる成魚達。一年魚と言う自然の摂理との認識はあるものの、感謝の念がいっぱいの複雑な心境であった。多くの失敗を重ねながらも飼育→孵化→稚魚→成育を小さな水槽の中で実践出来、且つ創意工夫を重ねた技術資料や記録写真を冊子に纏め上げられたことは大きな成果であり、同じ志を持つ仲間達に活用してもらえるのではないかと思う。



巣から取り出したばかりの卵

６月には、東松山市環境部の「市民環境プロジェクト」に登録され、多くの市民に絶滅危惧種（1A 類）である貴重な埼玉県の魚の認識を伝達出来たのではないかと思っている。

夏休み期間には「ムサシトミヨの親子観察会」を企画開催し、多くの参加者があり盛況であった。貴重な埼玉県の魚を初めて目前で観察し、餌付け、顕微鏡で稚魚用餌の確認、生態の説明等が行われた。当日見つけた巣から約 30 個の卵を取り出した場面では、子供達の目が輝き自由研究に取り上げたいと申し出る子も現れ、活動の励みにもなった。又、楽しくムサシトミヨを知ってもらおうと 11 コマ９分の「デジタル紙芝居」を制作した。スクリーンには美しい生息地、魚の生態、保護保全活動の様子が表現されており、今後の市民活動や出前講座として提供予定である。

来る秋の学園祭、来年２月市民への発表会等の体験イベントを通して飼育の楽しさや苦労を伝えながら、自然や生き物に興味を持つ子ども達を増やしていきたい。

私達は今日現在、手作りの小さな水族館の水槽の中で卵から成長したムサシトミヨが泳いでいることを誇りに思っている。この魚達が来春新たな生命を宿すスタートとなることを期待している。今後この成果を多くの人達に発信することで、奇跡の魚とも言われる埼玉県の魚「ムサシ

トミヨ」を知ってもらい、観てもらい、守ってもらえるような活動を続けていきたい。そしてこれらの実践活動が、人間と生物が調和を持って共存できる恵まれた環境作りの一助になれば幸いである。

成魚に餌やり

# 生涯学習実践作文受賞にあたって

◎最優秀賞　岡　　壮（深谷市）
**人と人とのつながりづくり・地域づくりに向けて**

この度は最高の栄誉である最優秀賞を受賞させていただき誠にありがとうございます。

私は深谷藍の会を立ち上げ歌声サロンを主催しています。

高齢者が元気、地域が元気、深谷が元気をモットーに日々頑張っています。

郷土深谷の偉人渋沢栄一翁は「できるだけ多くの人に、できるだけ多くの幸福を与えるように行動することが、我々の努めである」との名言を残しています。

その名言をかみしめ、私ができることはほんの小さなことですが、これからも高齢者の生きがいづくり、人と人とのつながりづくり・地域づくりに向けて一層努力をする決意です。

ありがとうございました。

◎優秀賞　萩原　澄江　（羽生市）
**地域作りは自分作り**

会の発足までの経過や約４ヶ月の実践内容でしたので「優秀賞」を頂けるとは思ってもいませんでした。でもこの７ヶ月の体験は私の意識や行動に大きな変化をもたらしたのです。主体的になるとアイディアも浮かび準備も楽しいのです。地域の人達の笑顔が励みです。

この受賞を契機になお一層地域のために頑張りたいです。

◎優秀賞　吉田　洋二（川口市）
**曲が作る人と人との「つながり」・地域づくりに向けて**

授賞式には、家内と参加いたしました。長い間支えてくれたお礼です。「継続は力なり」と朝な夕なに唱えておりました。体調管理、日々の気持ちの整理は家内と話し合いをしながら、毎朝の晴れやかな気分作りに努めました。

音作りには、毎日の気分が見事に反映されます。

2025 年には、やさしいウクレレ教本を作り、地域の皆さんとの交流を継続したいと思っております。受賞がクラブの後押しをしてくれたと思っております。

３月 30 日には、関係者との音楽イベントがあります。受賞の喜びを分かち合うつもりです。

◎優秀賞　柴田　　博（東松山市）
**小さな水族館から発信したいこと**

思いもよらずに素晴らしい賞をいただき、深く感謝申し上げます。

この度の受賞で、近い将来絶滅が危惧されている埼玉県の魚ムサシトミヨの存在と大切さを少しでも多くの方々に知って貰うことが出来れば幸いです。また様々な課題に取り組んできたチーム一同にも大きな励みになり、嬉しく思います。ありがとうございました。

# 令和６年度　生涯学習実践作文受賞者一覧

**最優秀賞**

| 番号 | 氏　　名 | 題　　名 |
|---|---|---|
| 1 | 岡　　壮 | 生涯学習の実践　人と人とのつながりづくり・地域づくりに向けて |

**優 秀 賞**

| 番号 | 氏　　名 | 題　　名 |
|---|---|---|
| 2 | 萩　原　澄　江 | 生涯学習の実践～地域作りは自分作り～ |
| 3 | 吉　田　洋　二 | 生涯学習の実践～曲が作る人と人との「つながり」・地域づくりに向けて～ |
| 4 | 柴　田　　博 | 生涯学習の実践～小さな水族館から発信したいこと～ |

**優 良 賞**

| 番号 | 氏　　名 | 題　　名 |
|---|---|---|
| 5 | 矢　神　勝　彦 | 生涯学習「町名の由来」で地域作りの一助に |
| 6 | 酒　井　真　澄 | 生涯学習の実践～人と人との「つながり」づくり・地域づくりに向けて～ |
| 7 | 市　川　重　彦 | 生涯学習の実践～人と人との「つながり」づくり・地域づくりに向けて～ |
| 8 | 川　本　順　一 | 温かく人とふれあう公民館で「つながりづくり」・「地域づくり」を目指す |

**佳　　作**

| 番号 | 氏　　名 | 題　　名 |
|---|---|---|
| 9 | 竹　内　　悟 | 生涯学習の実践～人と人との「つながり」づくり・地域づくりに向けて～「不登校」に寄り添って |
| 10 | 松　澤　俊　雄 | 遠くの親戚より近くの他人～人と地域に感謝！！～ |
| 11 | 秋　山　安　彦 | テニスを通じた人と人との「つながり」づくり・地域づくりに向けて |
| 12 | 後　藤　好　見 | 俳句による人づくり・地域づくり |
| 13 | 三　角　義　明 | 生涯学習の実践～人と人との「つながり」づくり・地域づくりに向けて～ |
| 14 | 皮籠石　成　久 | 人と人との「つながり」づくり・地域づくりに向けて～「人に出会い、人は育つ」～ |
| 15 | 髙　橋　裕　一 | 人と人とのつながりづくり地域づくりの実践 |

# 令和６年度　生涯学習実践作文審査委員会委員

| 氏　　名 | 職　　等 |
|---|---|
| 山　本　和　人 | 審査委員長<br>東京家政大学名誉教授<br>前東京家政大学学長 |
| 大　磯　　宏 | 審査副委員長<br>前埼玉県公立小学校校長会事務局長<br>元所沢市立所沢小学校長 |
| 渡　邉　秀　昭 | 元埼玉県立川口北高等学校長 |
| 小　川　三代子 | 元加須市立三俣小学校長 |
| 加　藤　美　幸 | 元朝霞市立朝霞第二小学校長 |
| 伊地知　幸　子 | 埼玉県ＰＴＡ連合会事務局長 |
| 川　田　清　隆 | 埼玉県高等学校ＰＴＡ連合会事務局長 |

# 令和７年度　生涯学習実践作文募集案内

## 「生涯学習の実践～『こどもまんなか』社会を目指す子ども・若者とのかかわり～」の作文を募集します

主　催　公益財団法人 日本教育公務員弘済会埼玉支部
後　援　埼玉県教育委員会　さいたま市教育委員会

### 1　テーマ設定の趣旨

日本の少子高齢社会は、今後長期にわたる社会問題の一つであり、さまざまな側面から影響を及ぼしています。そうした中、子どもたちの権利を守り、健やかな成長を支援するため、令和５年４月、子ども施策を社会全体で総合的かつ強力に推進していくための「こども基本法」が施行されました。これに基づく施策「こどもまんなか」実行計画は、ライフステージに応じた切れ目ない支援（教育、健康、福祉、子育て等）を行うことで、貧困と格差の解消を図り、全てのこども・若者が幸せに成長できることが期待されています。

一方、不登校児童生徒の増加をはじめ、いじめの重大事態化、暴力行為発生件数の増加、さらには、特別な教育支援を必要とする児童生徒や、日本語指導が必要な児童生徒の増加、加えて、虐待を受けている児童生徒の増加など、子どもたちが抱える課題が多様化・複雑化し、課題解決がより困難化してきています。

そこで、このような経緯と状況を少しでも良い方向に変えていけるよう、今年度の生涯学習実践作文のテーマは、「生涯学習の実践～『こどもまんなか』社会を目指す子ども・若者とのかかわり～」としました。

皆さんが職場や地域社会において、子どもたちを「まんなか」に据えた社会づくりのため、これまでご自身が生涯学習を通して学ばれたことを生かし、子ども・若者と関わる様々な課題をどのように捉え、どのように取り組んで来られたか、または、これか

らどのように取り組もうとされているかについて、子どもたちを「まんなか」にしたコミュニティスクールや多世代交流の推進等への取り組みなども含めて、具体的に述べていただきたいと思います。

**２　応募資格**　　埼玉県内に住んでいる方、又は県内で働いている方

**３　応募要件**

⑴　公的機関、市販の図書・雑誌等に既に発表した作文並びに他団体に応募した作文は、応募できません。

⑵　令和６年度の最優秀賞・優秀賞の受賞者の応募作文は、今年度の受賞の対象となりません。

⑶　応募作文の著作権は当支部に属し、提出された原稿（写真・資料等を含む）は返却いたしません。

なお、写真・資料等は審査の対象外です。

**４　応募形式**

⑴　**400字詰めＡ４判、横書き縦長**の原稿用紙を使用し、４枚以上６枚以内にまとめてください。

⑵　**①題名（テーマと同じでなくとも、同じ趣旨の題名でも可）**
**②氏名（ふりがな）**
**③郵便番号・住所・電話番号を、原稿用紙１枚目の６行分に記入してください。**

⑶　**本文は原稿用紙１枚目の７行目から、ボールペンで記入してください。**

⑷　上記⑴～⑶と同様の書式でのパソコン仕様でも結構です。ただし、パソコン仕様では、Ａ４判縦長の白紙に打出してください。

**５　応募締切**　　**令和７年８月２９日（金）〔必着〕**
（**簡易書留**でお送りください。）

**6　審　　査**　（公財）日教弘理事長が委嘱する審査委員が審査し、支部長が承認します。

**7　入選発表・表彰等**

⑴　入選発表は、令和７年10月下旬、本人宛の通知をもってこれにかえます。

⑵　入選作品の表彰は、令和７年11月26日（水）（予定）に行い、下記の助成金を贈呈します。

最優秀賞（１編）８万円
優 秀 賞（３編程度）各４万円
優 良 賞（５編程度）各２万円
佳　　作（若干編）各商品券(５千円)
なお、入選以外の応募者には記念品を贈呈します。

⑶　最優秀賞・優秀賞に入選した作品は、後日冊子にまとめ「教弘文庫」の一つとして県内の教育関係機関・団体並びに広く県民に配布し、生涯学習の発展に役立ててまいります。

**8　応募作文の送り先・問い合わせ先**

〒330-0063　さいたま市浦和区高砂3-12-24
公益財団法人　日本教育公務員弘済会埼玉支部
生涯学習実践作文　係
TEL048 － 822 － 7554（直通）

**9　その他**

募集により取得した個人情報は、当事業実施のための連絡等以外には使用いたしません。

# あ　と　が　き

公益財団法人 日本教育公務員弘済会埼玉支部は、令和６年度も教育文化事業の一つとして、広く一般県民の皆様方を対象に「生涯学習実践作文」を募集しました。

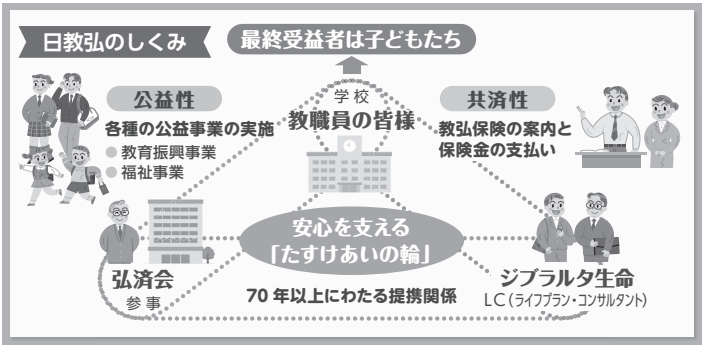
今年度は、作文題を「生涯学習の実践～人と人との『つながり』づくり・地域づくりに向けて～」として、Ａｆｔｅｒコロナの中にあっても、日常生活の中で、周囲の人々や地域とのかかわりをとおして取り組まれている様々な実践について、具体的に述べていただきました。

今年度の生涯学習実践作文には29編の応募がありました。応募者の皆様一人ひとりが、様々な社会環境、生活環境のもと、地域において日頃多くの人との出会いや関わりの中で、積極的に様々な実践に取り組まれている姿を窺い知ることができました。応募者の皆様の日々の取組に対して心から敬意を表するとともに、改めてご応募に感謝申し上げます。

ここに、ご応募いただきました生涯学習実践作文の中から最優秀賞１編、優秀賞３編を集録した「生涯学習実践作文集35」を「教弘文庫126」として刊行します。多くの県民の皆様にご一読いただき、これからの生涯学習の充実に参考にしていただければ幸いです。

併せて、令和７年度の「生涯学習実践作文」の募集についても、一人でも多くの県民の皆様にご応募いただきますようお願い申し上げます。

結びに、この度の「生涯学習実践作文」の募集、審査、選考及び刊行に当たりご理解、ご協力いただきました埼玉県教育委員会、さいたま市教育委員会をはじめ、各市町村教育委員会、審査委員会等の関係者の皆様に深く感謝申し上げます。




※弘済会の各種公益事業は、教弘保険の契約者配当金を事業資金として運営されており、本県教育の振興に寄与しています。

教弘文庫 126
＜生涯学習実践作文集 35 ＞
『生涯学習の実践～人と人との「つながり」づくり・地域づくりに向けて～』

令和７年４月21日発行

編集・発行
公益財団法人 日本教育公務員弘済会埼玉支部
さいたま市浦和区高砂３－12－24
電話　048－822－7554